



持続可能な
医療・社会の実現を目指す
大学生とアステラスのあゆみ

目次

1.
はじめに
2.
アステラスによる大学連携のスタイル
3.
リーダーシップ開発プログラム
4.
個別連携プログラム
5.
大学連携からの発展
6.
おわりに

はじめに

「ドラッグ・ラグ」や「ドラッグ・ロス」という医療課題をご存じでしょうか。「ドラッグ・ラグ」とは、海外で使われている新薬が、日本で承認されて使えるようになるまでに時間差が生じることを指します。「ドラッグ・ロス」とは、海外で既に使われている治療薬の開発が日本で行われず、使うことができない状況を指します。実際、直近5年間に米国で承認された新薬の約7割が日本で未承認であり、そのうちの約半数は日本での開発にも至っていません。これは、新たな治療選択肢を待つ患者さんやご家族、医療従事者にとって、深刻な問題です。

アステラスは、科学の進歩を患者さんの「価値」に変えることを目指すグローバルライフサイエンス企業です。私たちは、先端・信頼の医薬で世界の人々の健康に貢献するため、研究・開発に取り組んでいます。さらに、様々なステークホルダーと連携し、相互理解と共感を深めるアドボカシー活動を通じて、医療課題の解決にも挑戦しています。

この冊子では、私たちのアドボカシー活動の一例として、大学との連携事例を紹介します。大学生は文理を問わず、知識が豊富で感度も高く、将来を担う存在として社会のあるべき姿を真剣に考えています。大学生とともに、日本の医療や社会が抱える課題を学び、議論し、解決策を模索することで、相互に新たな知識や経験を得られるのみならず、未来の医療や社会をより良いものにするための基盤を築くことができると、私たちは確信しています。

革新的な治療法が一日でも早く継続して届く社会の実現に向けて、大学生とのアドボカシー活動を私たちと一緒に推進しませんか。皆様のご賛同・ご支援を心待ちにしております。

アステラス製薬株式会社
アドボカシー部 部門長

福士 納

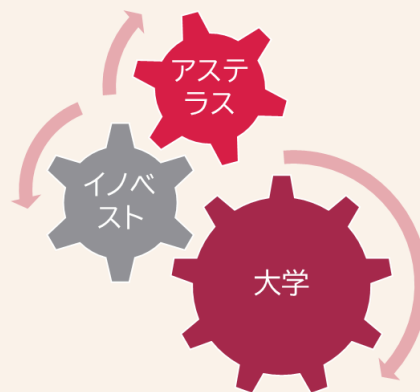
1994年にアステラス（旧藤沢薬品）に入社しMRとして営業に従事。京都営業所の責任者などを経て2020年より現職。趣味は運動。モットーは『一期一会』。



アステラスによる大学連携のスタイル

リーダーシップ開発プログラム

株式会社イノベストが各大学と連携して提供する、リーダーシップ開発を目的とした課題解決型授業プログラムです。学生たちはグループに分かれて社会課題について学び、解決策を考える中でリーダーシップを育みます。アステラスは課題提供企業として、日本の医療環境の課題を学生に紹介し、学生とともに解決策を探ります。



スケジュールの例

| Day | 内容 |
|-----|---------------------|
| 1 | オリエンテーション、チームビルディング |
| 2 | プロジェクトキックオフ、課題決定 |
| 3 | 解決策検討 |
| 4 | 中間発表、中間振り返り |
| 5 | 相互コーチング |
| 6 | 予選 |
| 7 | 本選、プロジェクト振り返り |
| 8 | 学修成果発表 |

個別連携プログラム

各大学のニーズに合わせて独自の連携を行うスタイルです。アステラス社員が大学を訪問して講義やグループワークを実施するケースと、学生がアステラスを訪問してイベントや数週間にわたるインターンシップに参加するケースがあります。



大学連携プログラム終了後、アステラス アドボカシー部との継続的な協働を希望する学生には、様々なアドボカシー活動の機会を提供しています

リーダーシップ 開発プログラム



- 名城大学
- 横浜市立大学

- 期間：2023年5月～6月
- 対象：全学部全学年希望者 約30名、全6チーム

参加した学生は、全5回のセッションを通じてアステラスが設定した課題テーマについて検討しました。最終プレゼンテーションで優勝したのは、印象的な問いをシンプルなポスターにまとめたグループ。優勝グループの3名はアステラス本社を訪問し、社員に向けて発表を行いました。

課題テーマ

日本の患者さんがいつでも最先端の治療を受けられる理想的な社会の状態を具体的に思い描き、その理想を現実にするために、名城大学生の理解促進と共感、第一歩目の行動を得るためのポスターを作成してください。

「医療技術が最高峰の国に住むAさんは、海外に行き治療を受けた。いったいなぜ？」

「治すのに数年かかっていた病気が、たった1回の治療で治るって本当？」

「“あること”を知らないAさんは、自分の病気の治し方が分からず、一生苦しんだ。“あること”とは？」

優勝グループが制作したポスター

アステラス本社で開催された発表会



学生の感想

ディスカッションを通して、アステラスの方々の熱意を直に感じ、自分では思いつかなかった意見もたくさん聞くことができとても刺激を受けました。学生の立場でも社会を変えることに役立るということも実感することができ、今後もぜひこの課題に対してできることがあれば取り組んでいきたいです。今回私たちが作成したポスターやウェブサイトが、少しでも細胞医療やドラッグ・ロスなどの認知向上に繋がってくれることを期待します



その正体はQRコードの先で！知ること世界が広がる。

#impactで世界を変えよう

広めよう。
遺伝子治療・細胞医療
ドラッグ・ロス

- 期間：2024年4月～6月
- 対象：全学部全学年希望者 61名、全16チーム

参加した学生の大部分は文系で、医療や医薬に関する前知識はほぼゼロでした。それでも？だからこそ？全8回のプログラムの中で、わからないことは自ら調べて理解を深めました。そして、各自が学生ならではの発想力と企画力、リーダーシップを発揮しながら独創的なプレゼンテーションを作成しました。

課題テーマ

ドラッグ・ラグやドラッグ・ロスの現状をふまえ、将来、革新的な医薬が継続的に届く社会を実現するための一歩として、医療課題や革新的医薬に対する一般市民の認知の向上があります。横浜市における認知向上のために、どのような機会や場で、誰に何をどのように伝えるかを決め、プレゼンしてください。



プログラム初回のアステラスからの講義

受賞した2チームはアステラス本社で社員に向けてプレゼンテーションを実施



＜こども対象＞

遊びの職業体験を通じて医療課題を伝える



＜高校生対象＞

大学と連携する高校での授業を通じて医療課題を伝える

馴染みのない話題の認知度アップ策を考えたことは、困難もたくさんあったがとてもよい経験になった。まずは自分がその話題について詳しくなること、そして第三者の目線に立って考えることが重要

社員の方々から、学生だけの発表時とは異なる視点のフィードバックをもらえた

本社イベントに参加した学生の感想

イベント記事
「学生と社員が学び合う
機会を創出」
@日経BP Human
Capital Online



横浜市立大学新入生交流会での実践



プログラム終了後、学生の一部が自主的にチームを結成し、提案したプロジェクトを実践へと進めました。半年間にわたり関係各所と調整を重ね、2025年3月に開催された「新入生交流会」にて新入生向けに講義を行いました。

この講義は横浜市立大学に関するクイズから始まり、医療課題や最先端の治療法についてのクイズへと進みました。その途中には、ショートドラマやアテレコ動画が盛り込まれており、普段医療に馴染みのない新入生も親しみを感じながら参加できるようさまざまな工夫が凝らされていました。

担当の小泉大輔准教授
(国際商学部) のコメント

自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉の通り、提案の実現に至った行動力は、より高次のリーダーシップを発揮した結果だと思えます

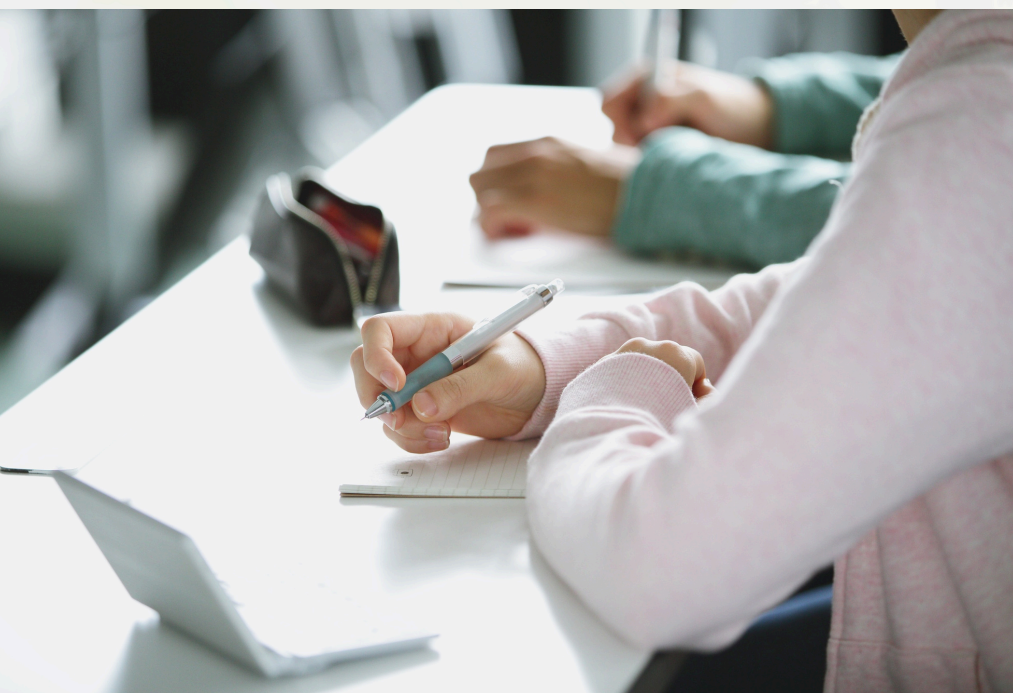


新入生交流会後の達成感あふれる学生たち
～小泉先生（前列左）とアステラス社員（後列右2名）と共に～

新入生交流会記事
「未来のリーダーを育む
- 学生プロジェクトの挑戦」
@横浜市立大学ホームページ



個別連携プログラム



- 常葉大学造形学部
- 明治薬科大学
- 名城大学薬学部

- 期間：2023年6月および8月
- 対象：未来デザイン研究会の学生4名

医療課題に関する専門家の会議および「医療の未来と課題」を専門家と大学生が議論するイベントにおいて、学生たちが議論をグラフィックでリアルタイムにまとめ（グラフィックレコーディング手法）、参加者の相互理解を促しました。

学生によるグラフィックレコーディング作品



医療という初分野かつ専門的な知識が必要な場で理解が追いつく心配だったが、日本の医療について自分も考えるきっかけができてうれしい

学生の感想

今回のイベントを経てイラストや視覚言語の特訓を行い身につけることができ、自分の成長にもつながった



担当の常葉大学 学長
安武伸朗教授のコメント

学生が学んでいるデザインの役割は、社会を変えていく場づくりや組織変革に広がりつつあります。大切なのは一人ひとりが社会生活を営む当事者として、他者と共創しながらしくみを模索する技術と態度といえます。この点で、本コラボレーションはまさに最新のデザイン学の実践場であり、デザイン学生たちが全力で取り組むべきテーマといえます。この活動に参画させていただいたことに心から感謝しています



イベント記事
「グラフィック
レコーディングで支援」
@常葉大学ホームページ



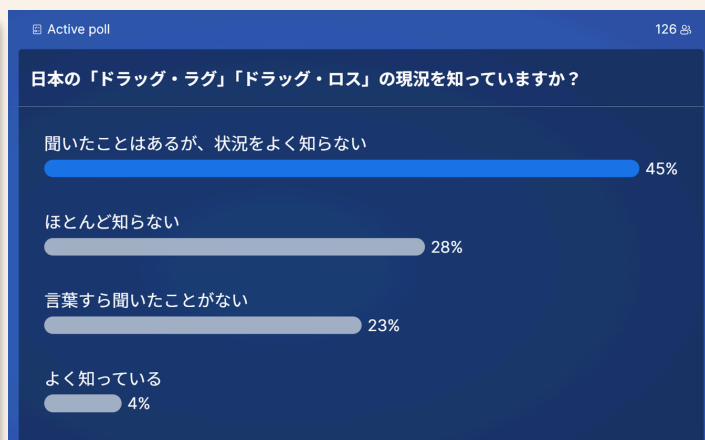
- 期間：2024年6月および2025年6月
- 対象：全学科4年生 約360名(2024年)、全学科4年生＋生命創薬科学科3年生 約400名(2025年)

「医薬品開発」の1コマ「臨床試験の国際化」の授業で、製薬業界および日本の医療環境の現状と課題についてアステラスが2年連続で講義を担当しました。臨床開発経験がある社員も講師として登壇し、専門性と経験をふまえた説得力のある内容の講義を提供しました。

受講した学生からは「新薬開発に関する具体的な実例を通じて理解が深まった」、「ドラッグ・ラグ／ロスについての理解が深まった」、「医療に関する問題に意識を向ける必要性を感じた」等の感想が寄せられました。



授業の様子



授業中のリアルタイムアンケート
「ドラッグ・ラグ／ロスの現況を知っていますか？」

授業後アンケート：あなたが望む医療や社会の未来の姿は？ (365件の回答を要約・編集)

- 医療の平等性
 - ✓ 誰でも必要とする治療を受けられる
 - ✓ ドラッグ・ラグ/ロスがない
 - ✓ 全世界の人が幸せに暮らせる
 - ✓ 皆が笑顔
 - ✓ 誰でも安全安価に薬を使える
 - ✓ 誰も取り残さない
- 生活の質 (QoL) の向上
 - ✓ 患者さんのQoL向上に貢献できる医療
 - ✓ 誰もが健康に生きられる
 - ✓ 健康寿命を延ばす
- 医療技術
 - ✓ どんな病気にも治療法が存在する
 - ✓ 全ての病気を完治できる
 - ✓ 希少疾患で使える薬が増える
- 負担の軽減
 - ✓ 誰もが、金銭面の大きな負担なく、最新の医療を受けられる
 - ✓ 費用や家族の負担をできる限り減らして治療に臨める
 - ✓ 日本だけではなく、国家間で協力しひとりでも多くの人命を救う

学生にとって、「患者さん」を第一に考えた医薬品開発を、企業の現場の方から直接学ぶ良い機会となっている。今後も講義を継続してほしい。次回はシラバス作成段階から一緒に検討したい

担当の
前田英紀教授のコメント

- 期間：2025年7月
- 対象：1年生 約270名

「教養演習」の授業で、製薬業界および日本の医療環境の現状と課題を紹介、さらに細胞医療や遺伝子治療などの最先端の治療法がもたらす価値についてグループディスカッションを実施しました。

アドボカシー部のみならず、社内インターンシップ制度で参加したメディカルアフェアーズと日本コマーシャルの社員2名とともに、講義内容検討から当日の講師、フォローアップまでを対応しました。

ディスカッションのハイライト

テーマ①最先端の治療法がもたらす価値の中で特に大切だと思ったものは？

⇒多くのグループのTop 5は「QoLが高くなること」、「治る見込みを提供できる希望の価値」、「通院や治療、介護に伴う費用が安くなること」、「家族の負担が少なくなること」、「治療により少しでも長生きすれば、将来もっと有効な治療薬を使える期待が持てること」

テーマ②1億円の薬は高いと思いますか？それはなぜですか？

「安い」と考える意見

- ✓ 一億円で命を救えるなら安い
- ✓ 将来の人生を考えると安い
- ✓ 高額療養費制度を考えると安い
- ✓ 100円×100万人で1億円になる

「高い」と考える意見

- ✓ 市民的な感覚からすると高い
- ✓ 副作用や薬が効かない場合があることを考えると高い

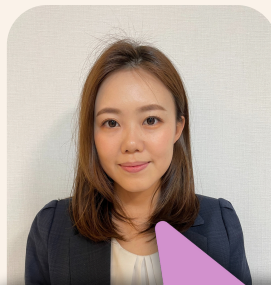
講義を担当した社員の感想

メディカルアフェアーズ
鈴木優子



担当教授の丹羽先生からの「製薬企業の社員から講義してもらうことで、学生の視野を広めたい」というニーズに応えられる講義ができたと思います。講義終了後にキャリアに関する質問をしてくださる学生さんもいて、自分自身の入社動機を思い出す素晴らしい機会となりました。難しいテーマながらも「医療の価値」についてグループでの議論が活発に行われていたことも印象的でした

日本コマーシャル
塩川春奈



産休・育休復帰後にキャリアを考える中でアドボカシー部の活動に興味を持ちました。講義やグループディスカッションの準備と本業であるMRの仕事の両立は大変でしたが、学生さんとお話ししながら医療課題について考えた結果、本業にも活かせる学びがたくさんあり、とても貴重な経験ができたと感じています。講義後に39名もの学生さんがアステラスとの継続的な協働を希望してくださり嬉しかったです

大学連携からの発展



～ 学生との共創へ～

大学連携プログラム終了後、アステラス アドボカシー部との
継続的な協働を希望する学生は、様々なアドボカシー活動で活躍しています

学生協働の事例 ①

市民の疑問に答える資材制作プログラム (2024年2~9月)

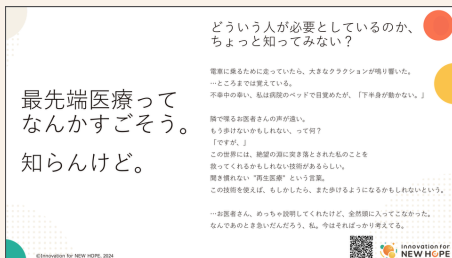
5大学9名の学生 (前述の名城大学、常葉大学および明治薬科大学を含む) が、創薬や医療課題に関する「体験」を通じて、自らの想いと言葉で市民の疑問に答える資材を制作しました。



<「体験」の一例>
研究所見学&研究者との対話

<学生が製作した資材>

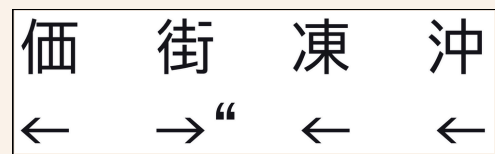
ポスター



説明スライド



動画



謎解き

<学生による資材発表会@アステラス本社>



イベント記事
「市民の疑問に答える資材発表会」
@Innovation Innovation for NEW HOPE
ポータルサイト



学生協働の事例②

製作した資材を市民イベントに出展！学生とともにイベント企画・運営

(1) サイエンスアゴラ2024 @東京 (2024年10月)

テーマ「知ろう・話そう・一緒に描こう！最先端の薬が継続して届く社会」

2日間、約450名の来場者に対して、一緒にゲームを楽しむとともに、制作資材を用いて創薬や医療課題に関して対話しました。



学生による資材説明



来場者親子とゲーム

(2) 超ECO祭2024 @京都 (2024年11月)

テーマ「研究者体験 de 医療の未来を考えよう」

2日間、約250名の来場者に対して、科学を身近に感じる研究者体験を提供するとともに、制作資材を用いて創薬や医療課題に関して対話しました。



学生による資材説明



小さなお子さんの研究者体験

言い方一つで
どの年代にも
資材が伝わるのは
勉強になった

とても学びのある
経験で良い
思い出になった

私たちが伝えたい
ことを多くの方に
伝えられた

学生の感想

イベント記事
@Innovation Innovation for
NEW HOPE ポータルサイト

サイエンスアゴラ

超ECO祭



担当者からのメッセージ

アステラスの学び

アドボカシー部の大学連携では、次世代を担う学生たちに社会課題への関心を広げることにより、学生たちが主体的に「社会をより良くするアクション」を考える場になることを目指しています。

学生との活動の中では、学生の素朴な疑問や感性を大切にしています。学生からの新鮮な視点を取り入れることで、私たち自身の活動がより市民に伝わりやすくなることを実感しています。

なかでも印象深かったのは、市民イベント等の際に、学生がいざ市民を目の前にした時、こちらの期待以上に、自分たちの言葉で市民に語り掛ける姿です。学生と協働する中で感じるのは、彼らの柔軟な発想と旺盛な好奇心は無限の可能性を秘めているということです。

一方で、時に医療課題の複雑さに戸惑う姿を見ることもあります。しかし、その壁をともに乗り越えるプロセスこそが「学び」と「成長」であり、学生のその後の人生の糧ともなり得る要素だと感じています。

今後は、さらに多くの学生とのネットワークを広げ、日本全国でアドボカシー活動を発展させていきたいと考えています。この活動を通じて、より良い日本の医療環境を実現するためのムーブメントを社会全体に広げていきたいと思います。

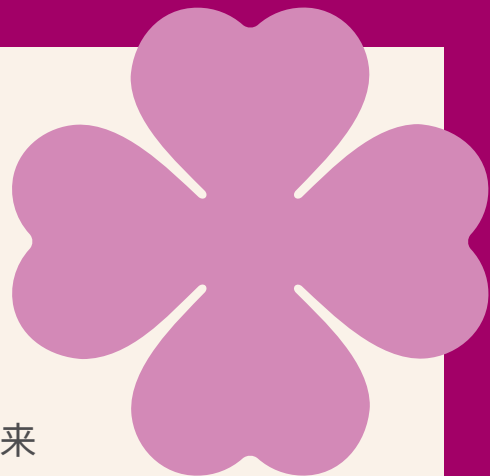
アステラス製薬株式会社
アドボカシー部
エキスパートネットワーキング

工藤 碧

2012年にアステラスに入社し、2023年よりアドボカシー部で大学連携をリード。
趣味は時短料理とフルーツ。
モットーは『人事を尽くして天命を待つ』。



おわりに



マルチステークホルダーとともに創る医療の未来

「大学生と製薬企業が一緒に活動することに、どんな意味があるの？」
そんな疑問を持つ方もいらっしゃるかもしれません。実は、私たちも活動初期は、ここまでの広がりや深さを想像できていませんでした。しかし、協働を続けるなかでこの取り組みの魅力と多面的な意義に気づきました。

学生は、医療課題の解決に向けて主体的に行動する力を養います。その過程で、医療従事者、患者団体、アカデミア、企業、他大学の学生という、多様なステークホルダーと対話する機会が生まれ、視野が広がり、キャリアを考えるきっかけにもなります。大学は、産学連携を通じて企業ごとの特徴を活かしたプログラムを提供でき、学生の成長支援をすることにつながります。企業は、未来の医療を担う世代であり、わかりやすい情報発信の方法に長けている学生と協力することで、広く社会に医療の重要性を伝えることができます。

医療課題の解決は一朝一夕には実現しませんが、取り組みを継続することで、次世代の人材育成に貢献し、医療を自分ごととして考える市民が増え、さらには、ヘルスケア産業の発展や、社会全体をより良くする原動力につながると考えています。

この取り組みは、私たちだけではなく、多くの企業や団体が参加することで、多様な知見やアイデアが集まり新たな可能性が広がります。皆さんにもぜひご参加いただき、ともに未来の医療を創造していきたいと願っています。



アステラス製薬株式会社
アドボカシー部
エキスパートネットワーキング部長

大野 好美

2007年にアステラスに入社し、研究、サステナビリティ、医療政策、政策秘書などを経て現職に至る。
モットーは『正しい道を選ぶのではなく、選んだ道が正しくなるように生きる』。

私たちの活動に興味・関心をお持ちの方、連携を希望される方は
お気軽に下記までご連絡ください

アステラス製薬株式会社 アドボカシー部

E-mail : newhope-sm@astellas.com

〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-5-1



こちら↑から
E-mailアドレスに
アクセスできます